



東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

〇考える子 〇助け合う子 〇やりぬく子
〇じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和3年12月23日発行 第11号

冬休み 親子での時間を存分に!

岩内東小学校長 齊藤 信之

コロナ禍での2度目となる年末・年始を迎えようとしています。この一年、マスクを外して思い切り笑い合える日が訪れることを待ち望んできましたが、まだ先のこととなるようです。

子どもたち自身の我慢とご家庭のご協力により、子どもたちの安全を守りながら、学校での様々な活動を止めることなく今学期を締めくくることができることを嬉しく思っています。感染症対策と教育活動の両立の難しさに頭を抱えることもありましたが、終わってみれば、仲間と楽しく活動する子どもたちの姿や笑顔に元気をもらうことができました。コロナを契機に世の中では、様々なものが形を変えニューノーマルとして定着していつています。学校においても、これまでのスタイルに縛られることなく、発想を新たに内容や方法の変更を図ることが望ましいものがあるのではないのでしょうか。保護者アンケートの結果なども参考にしたうえで検討を加えていきたいと思ひます。

子どもたちを一堂に集めることを避け、今回もまた、校内放送での終業式としました。まずは、この2学期の間、それぞれに目標をもって頑張ってきた子どもたちをほめました。加えて、いつも自分を応援し、励まし、支えてくれた人に対する感謝の気持ちを忘れずにいてほしいということをお話しました。そして、明日からの冬休みは、この気持ちを表すのには絶好の機会であることを伝え、家族のために自分ができることを考え、家族の人が喜んでくれることを進んでやってみることを促しました。

普段の言葉や態度はどうであれ、子どもは親に安心を求めています。お母さんやお父さんのそばにいてだけで安心できる、そんな親子の関係を求めています。ですから、親に甘えるのは、子どものごく自然な姿です。十分に甘えることができた子どもは、時期が来れば自然に親から離れていきます。その日が来るまでは、学年に関係なく、存分に甘えさせてあげてください。子どもたちが前向きに頑張るためには、そうして心のエネルギーが十分に満たされることが必要です。クリスマス、年越し、お正月と楽しいイベントが続く冬休みだからこそ、存分に親子での時間を一緒に楽しんでほしいと思ひます。

より感染力の強い変異株が、瞬く間に世界中に拡がっています。日本も例外ではなく、年末・年始は、いつも以上に人の流れが多くなるので注意が必要です。特に、「会話の時」「飲食の時」「少年団活動の時」「人が集まる時」の4つの場面は、リスクが高まります。家族でのお出かけや知人との集まりなどの際には、手本を示しつつ声をかけてあげてください。ご家族の皆さんが、事故なく健康に過ごす冬休みとなることをお祈りいたします。